

甲斐駒ヶ岳・早川尾根・鳳凰三山縦走

2日目（11月23日）

七丈小屋 ～ 甲斐駒ヶ岳 ～ 早川尾根小屋

起床	7:00	
七丈	6:30 発	
八合目	7:30 着	7:40 発
甲斐駒ヶ岳山頂	9:00 着	9:40 発
駒津峰	11:10 着	11:30 発
仙水峠	12:10 着	12:40 発
栗沢山	14:10 着	14:20 発
アサヨ峰	15:50 着	
早川尾根小屋	18:50 着（小屋泊）	

この日は行程が長いので、早めに出発しようと3時に起きたが準備に手間取り、それに日の出までテン場で景色を楽しんでしまい、6時半の出発となってしまった。晴れてはいるが、やや雲が多い。八ヶ岳の稜線は雲に覆われていた。やや急な登りが続くが、雪が予想よりもずっと少なく、少し拍子抜けだった。ただ、鎖場が多くて足場が悪く、気は抜けなかった。

八合目御来迎場に着くと、正面に雪をかぶった荘厳な北岳が姿を現した。少し休憩して、出発。標高が3000m近いのにウサギの足跡が多い。しかも、上の方に向かって登って行った足跡が多かった。特に危険を感じる箇所もなく順調に進み、大展望の広がる甲斐駒ヶ岳山頂に到着した。



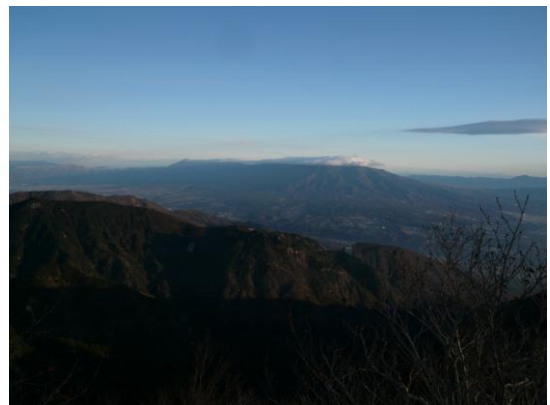
夜明け前の地藏岳（左）と高嶺



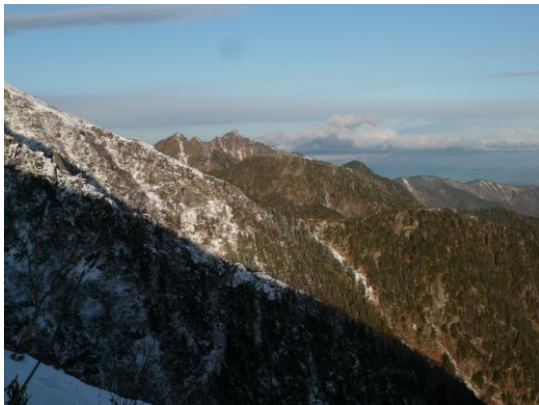
大菩薩付近から日が昇る



甲斐駒ヶ岳山頂を目指す。積雪は20cm程度。



八ヶ岳の稜線は雲をかぶっていた



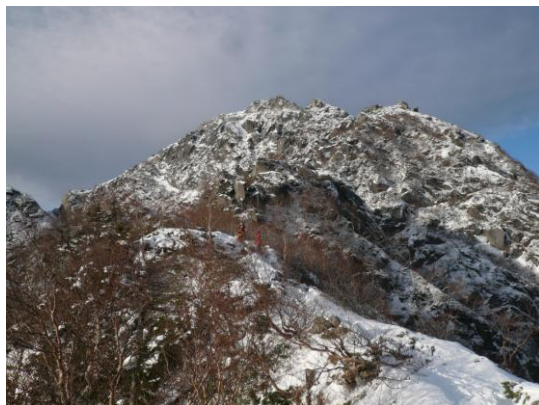
鋸岳



早川尾根（八合目から）



八合目御来迎場



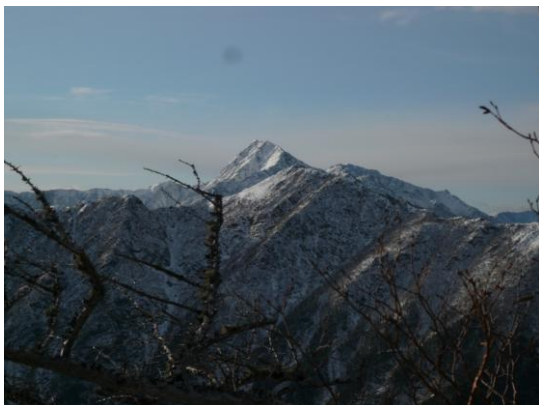
八合目からさらに頂上を目指す



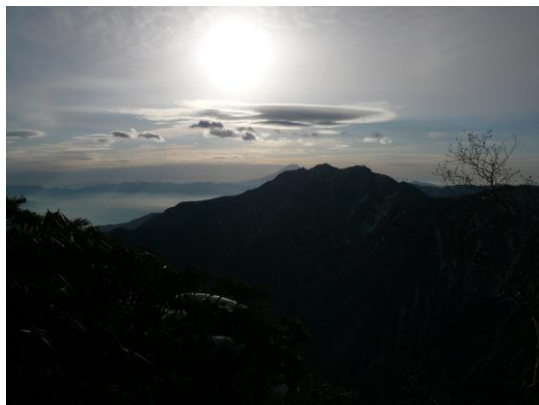
八合目から東の眺め。左は奥秩父。



鎖場を登る M3 三枝



北岳（八合目から）



鳳凰と富士山



北岳と摩利支天（右）



山頂手前にある駒ヶ岳神社のお宮



登ってきた道を振り返る



山頂まであとわずか



摩利支天や駒津峰への分岐地点から眺める仙丈ヶ岳

甲斐駒ヶ岳は頂上のすぐ近くまで植物が生えている。だからウサギも多いのだろう。



ふと上空を見上げると、逆さの虹が



標高 2967m の甲斐駒ヶ岳山頂に到着。

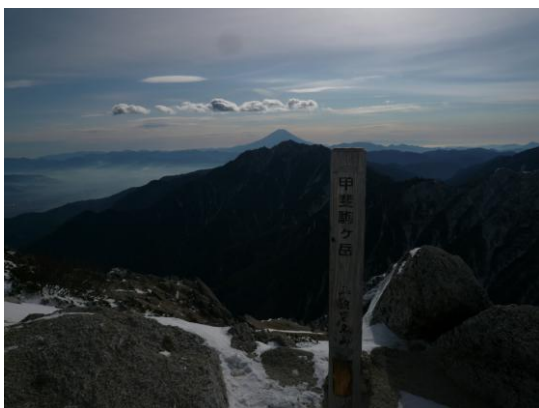
山頂にはすでに 10 人ほどの人が休んでいた。360 度の大展望なのだが、残念ながら晴れているのは南アルプスだけで、八ヶ岳も北アルプスも中央アルプスも雲がかかっていた。しかし目の前には仙丈ガ岳が聳え、北岳から南に雪をかぶった南アルプスの主稜が連なる。



山頂にはすでに多くの人がいた。ほとんど全員黒戸尾根の往復のようだった。



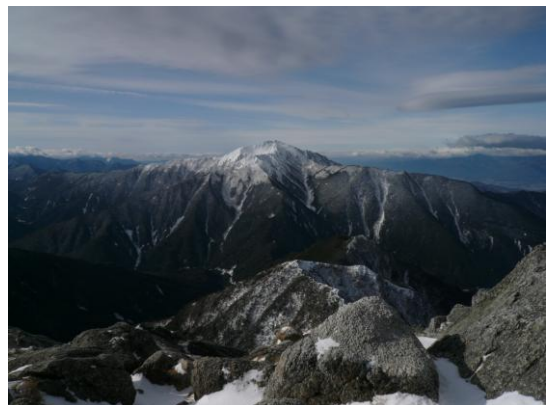
山頂に到着。北岳をバックに記念撮影。
右が M3 三枝、左が M2 只左。



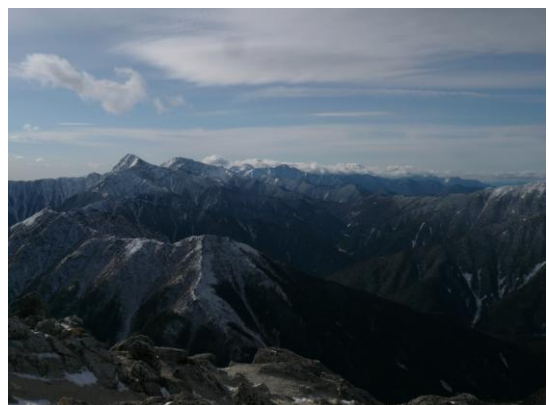
鳳凰と富士山



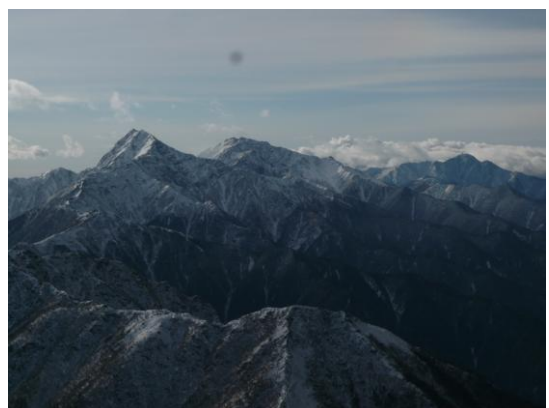
中央やや左の少し尖ったのが地藏岳のオベリスク



仙丈ガ岳はひと際大きく目の前に聳える



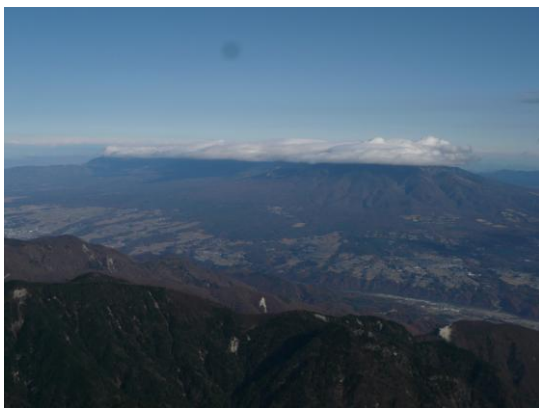
南アルプスの主稜。左から北岳、間ノ岳、荒川岳、塩見岳。



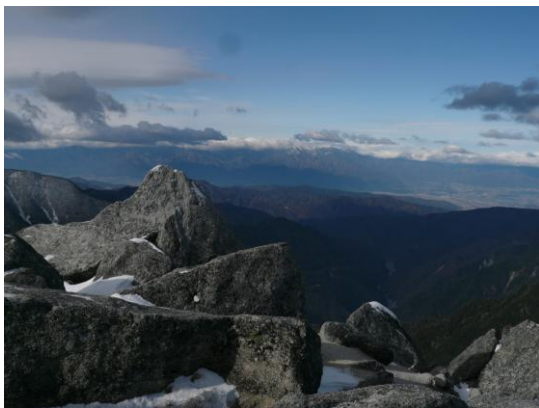
左から北岳、間ノ岳、右は塩見岳（荒川岳は雲に隠れてしまった。）



南方向の眺め。南アルプス北部の名山が連なる。右は仙丈ガ岳、左端は北岳、そのすぐ右が間ノ岳。その右に荒川岳、塩見岳。



北方の八ヶ岳は雲の中

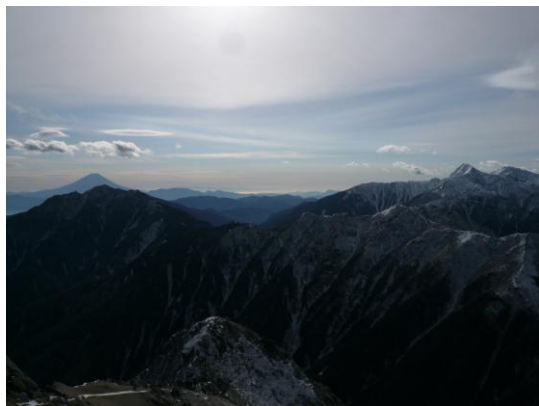


西の方角。中央アルプスも雲の中。

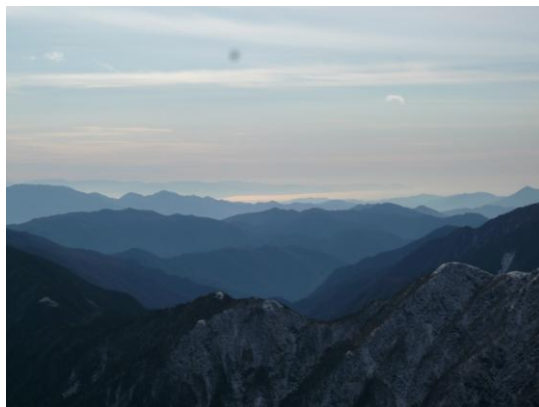


東の方角。奥秩父は晴れているようだった。

雄大な展望を楽しんでいると、富士山の少し右のほうに光っているのに気づいた。よく見ると、何と駿河湾だった。その後ろに伊豆半島も見える。まさか海まで見えるとは思わなかった。



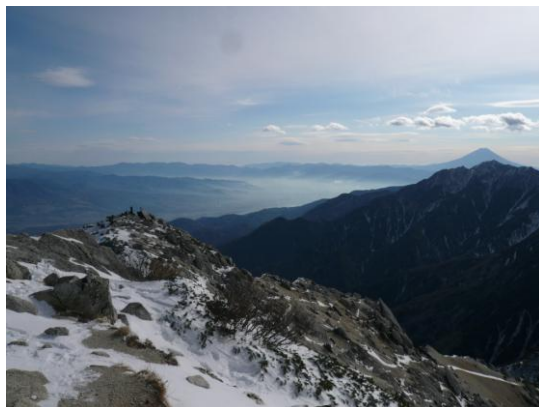
富士山の右に光っているのは海（写真中央）



駿河湾

素晴らしい眺めに名残は尽きなかったが、この先が長いので、駒津峰へ向けて出発することにした。

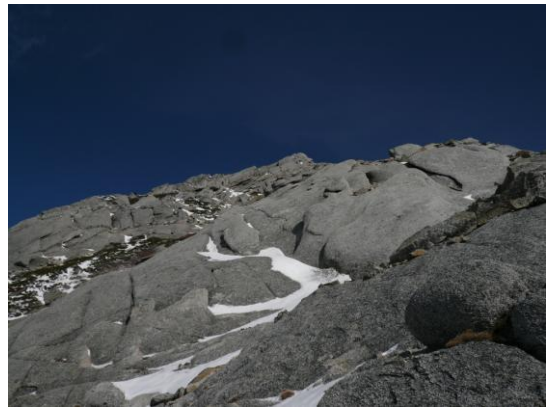
駒津峰へまっすぐ下る岩場ルートではなく、やや迂回する安全ルートをとったが、雪が中途半端にまだらに積もっていて非常に歩きにくかった。



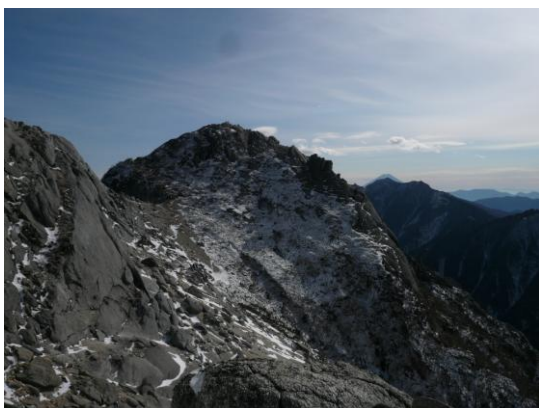
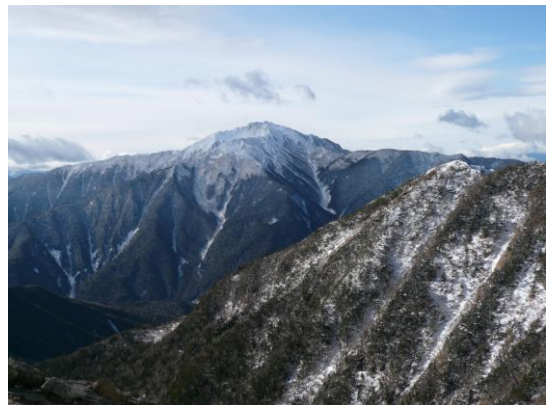
富士山を正面に見ながら下る



南斜面なので雪が少ない



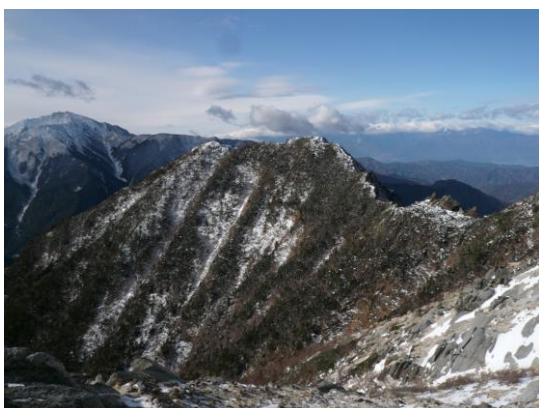
摩利支天への分岐



摩利支天。時間に余裕がなかったので、今回は断念。



岩の間に中途半端に雪が積もっていて歩きにくい



駒津峰（2740m）



山頂の方を見上げる



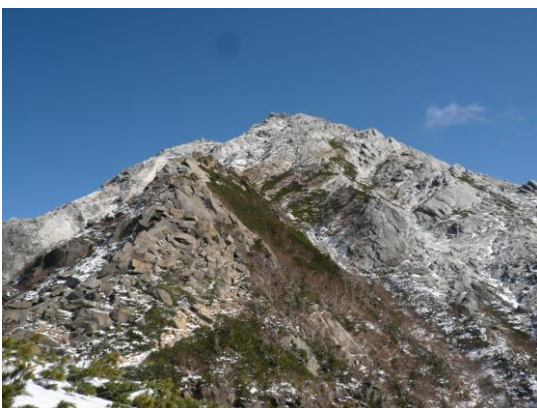
樹林帯の道となる



甲斐駒ヶ岳が次第に遠くなる



駒津峰山頂までもう少し



甲斐駒ヶ岳山頂



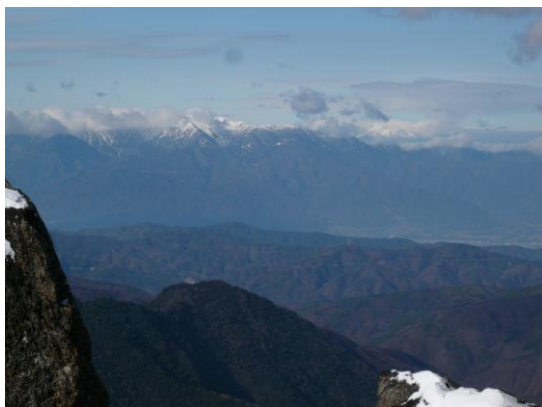
駒津峰山頂に到着

駒津峰では休憩を取らずに通過したが、雪がさらに少なくなったので、下り始めてすぐにアイゼンを外し、ついでに休憩をとった。

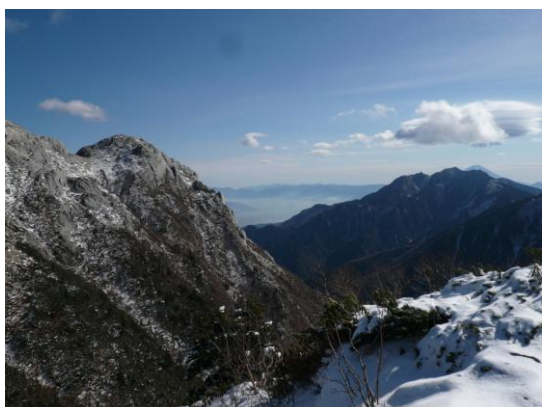
アイゼンを外して脚が軽くなり、アサヨ峰や北岳を正面に見ながら気分よく標高差500mをどんどん下るが、少し飛ばしすぎて二人とも大汗をかいてしまった。これが後になって大きく響くことになる。見事なシラビソの樹林の中を下り、仙水峠に到着。



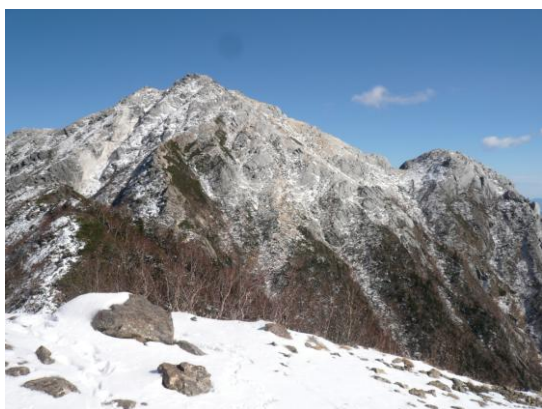
早川尾根や北岳を正面に見ながら、標高差500mを一気に下る。中央やや左がアサヨ峰（2799m）。中央やや右に霞んで見えるのが北岳。



中央アルプス（駒津峰から）



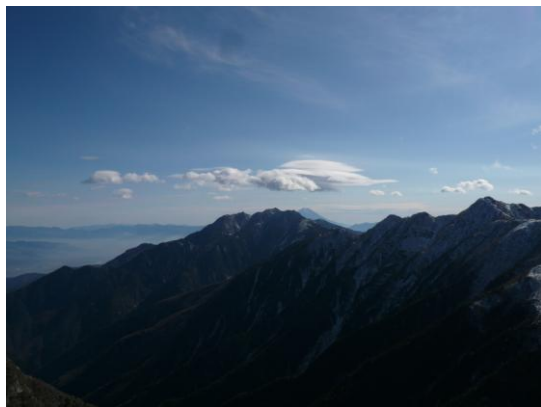
駒津峰から東南の眺め



振り返ると甲斐駒ヶ岳が大きい



甲斐駒ヶ岳と摩利支天



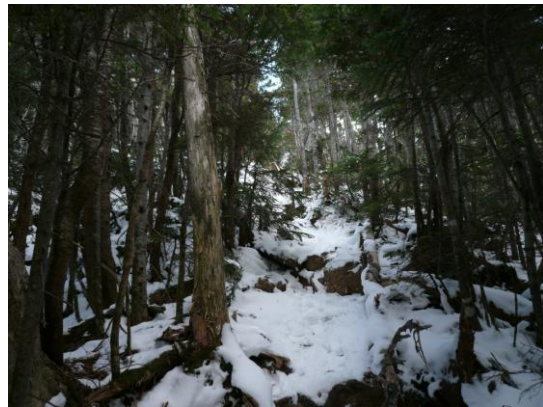
鳳凰三山に続く早川尾根



雪がほとんどなかったのでアイゼンを外した



見事な樹林帯



仙水峠から栗沢山への登り始め



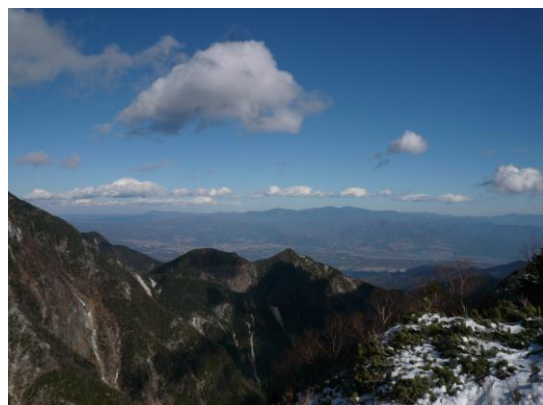
早川尾根



甲斐駒ヶ岳に雲がかかり始めた



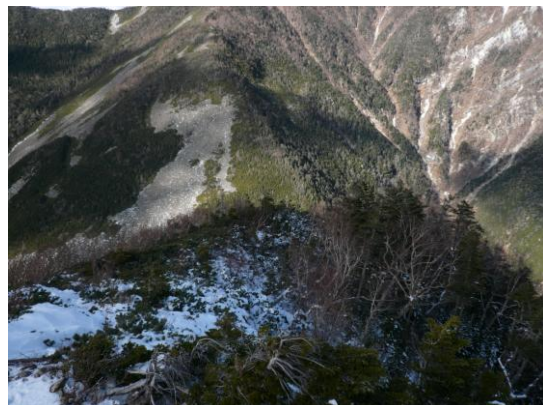
仙水峠



奥秩父は相変わらず天気が良い

仙水峠で昼食を取り、再び出発。ここから標高差450mの登り返しとなる。樹林帯の道を登って行くと、程なく下ってくる人とすれ違った。北沢峠にテントを張り、栗沢山をする帰りとのことだった。この日、甲斐駒ヶ岳を出てから出会ったのはこの人だけだった。

やがて、背の低いダケカンバとハイマツがまばらに生える道となり、少し雪が深くなったがそれでも30cm程度だった。この付近からアサヨ峰までは、樹皮の美しいダケカンバとハイマツと雪が見事なコントラストを描き、素晴らしい景色だった。



仙水峠を振り返る



ダケカンバとハイマツと雪のコントラストが美しい



早川尾根

栗沢山まで 450m の急登のはずだが、景色が素晴らしく全く苦にならない。栗沢山に到着して周囲を見渡すとかなり雲が多くなっていたが、私たちの進む方角はよく晴れていた。

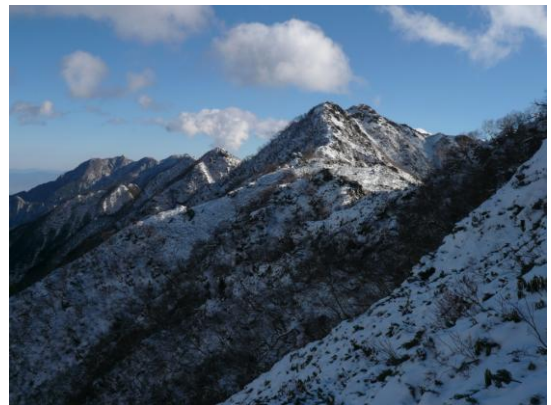
10 分ほど休憩して、アサヨ峰に向けて出発したが、急に雪が深くなり、足を取られるようになった。幸いこの日先行パーティーがいてトレースがついていたので助かった。今回のコースで、この栗沢山～アサヨ峰の間がもっとも雪が深かった（それでも、膝程度だったが）。道は雪のため思ったよりも険しく、岩場の登りでは少してこずることもあった。スタミナ抜群で、私より先に疲れたのをみたことがない三枝のペースが少しダウンし始めた。最初は雪に慣れないせいと思っていたが…



栗沢山山頂はもう直ぐ



このような素晴らしい景色が続く



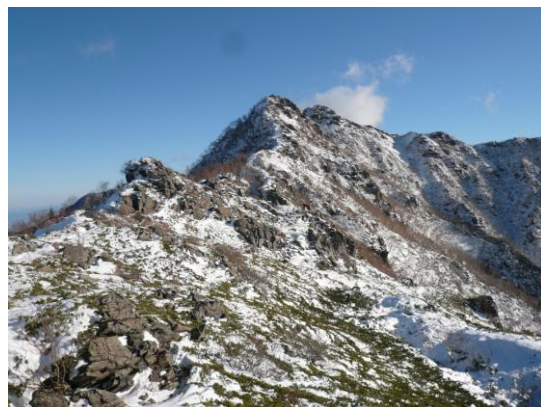
中央やや右がアサヨ峰、左端が地藏岳



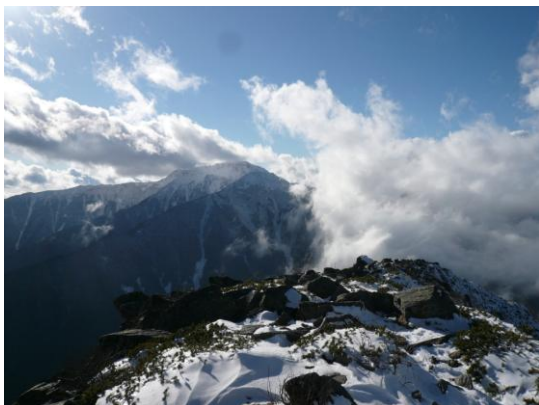
甲斐駒ヶ岳は雲に覆われてしまった



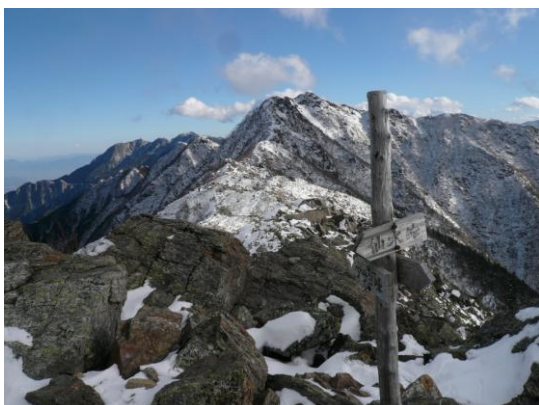
栗沢山山頂に到着



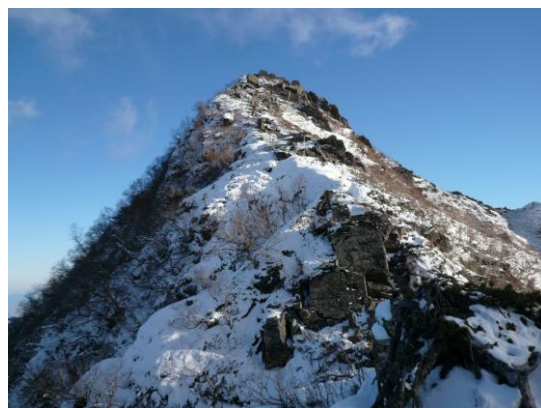
中央のピークの奥がアサヨ峰



仙丈ガ岳。雲が多くなってきた。



アサヨ峰を目指して栗沢山を出発

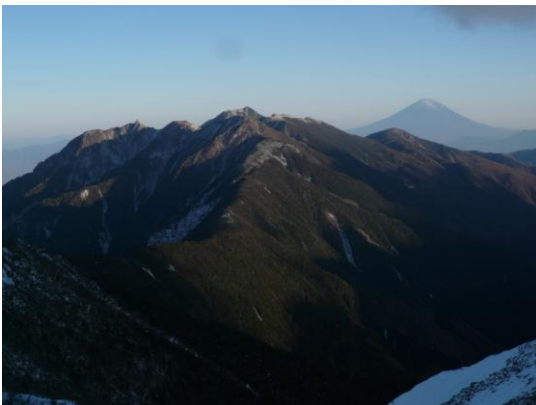




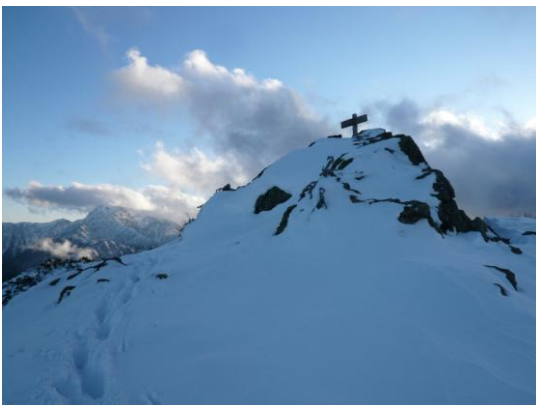
北岳



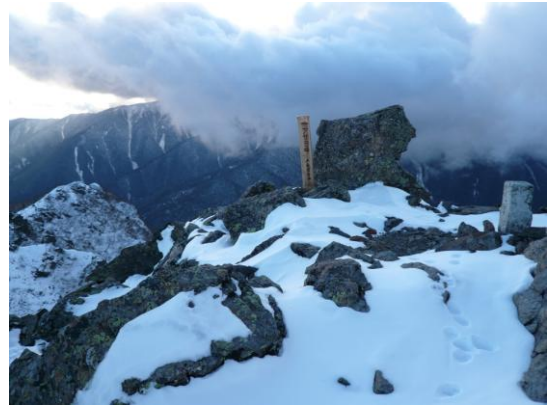
ようやくアサヨ峰が近付いてきた



鳳凰の山々と富士



アサヨ峰山頂直下



ようやくアサヨ峰山頂に到着。すでに4時近くになっていたの
で、すぐに出発。

アサヨ峰に着いたとき、すでに4時近くになって日もだいぶ傾いていた。アサヨ峰からこの日の目的地、早川尾根小屋まで夏でも2時間かかるが、この先迷うようなところはないし、この日はテントではなく無人開放している小屋泊まりだったので少し気が楽だった。ただ、小屋に向けて出発するにつれ、三枝のペースがさらに落ちてしまった。症状を聞いていると、どうやら軽い脱水でバテてしまったようだった。もともと水分を取る量が少なかったうえに、駒津峰の下りで大汗をかいたのが応えたようだった。頻繁に小休止を取って水分を補給しながら進む。

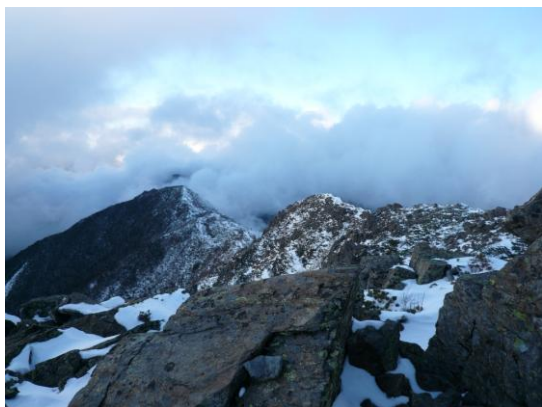
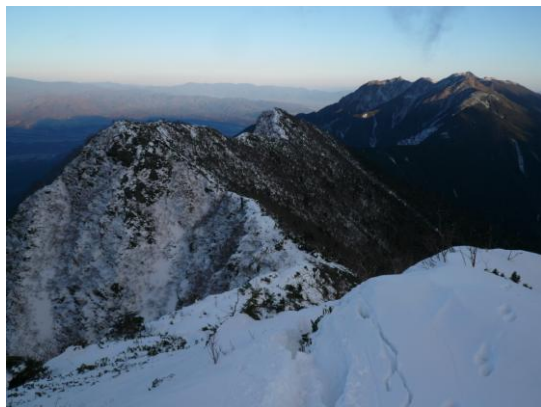
しばらく進むと、雪面に見慣れない足跡がたくさんあるのに気づいた。どうやら、雷鳥の足跡のようだった。甲斐駒～鳳凰一帯では、雷鳥は絶滅したと長らく思われていたが最近ごくわずかに生き残っているのが確認されたと聞いていた。もしかしたらお目にかかれるかもしれないと、少し期待していたら、アサヨ峰から1時間ほど歩いて薄暗くなってきたころ、ミヨシノ頭付近で、いきなり私の横の岩に冬羽をまとった雷鳥のオスが飛び出して来た。写真を撮ろうと思ったが、私が嬉しくて思わず声をあげてしまい、飛んで逃げてしまった。あとで薬師小屋の主人に聞いた話だが、この山域の雷鳥は警戒心がかなり強いようで、人がいるところには姿を現さないそうである。多くの人が鳳凰や甲斐駒に押しかけるようになってから雷鳥が姿を消したと、彼は憤慨していた。

半ばで日が暮れてしまった。早川尾根小屋までは本当に長かった。午後7時近くになってようやく無料開放している早川尾根小屋に到着。中年夫婦がひ

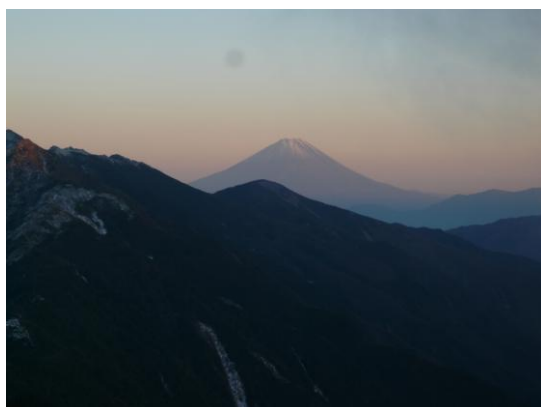
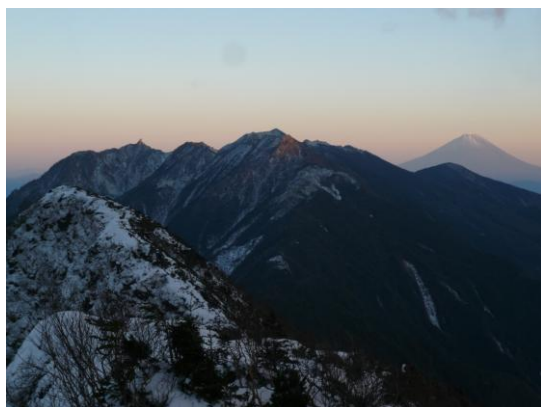
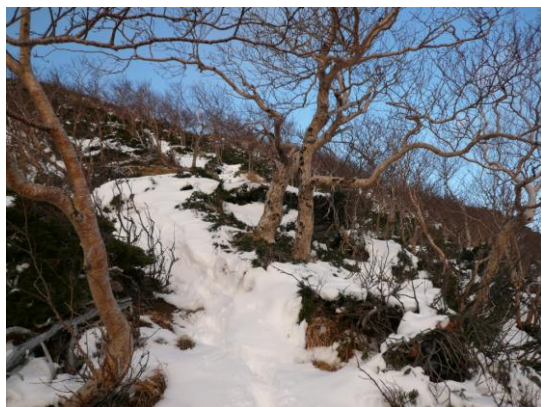
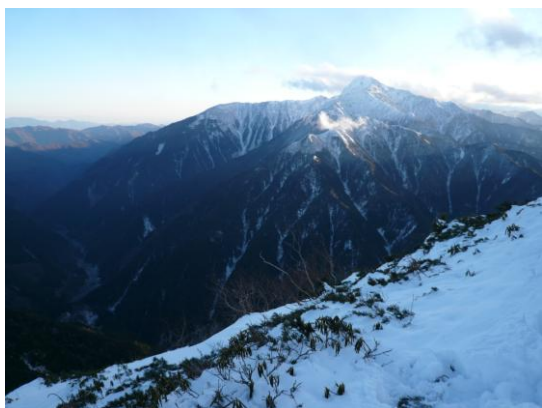
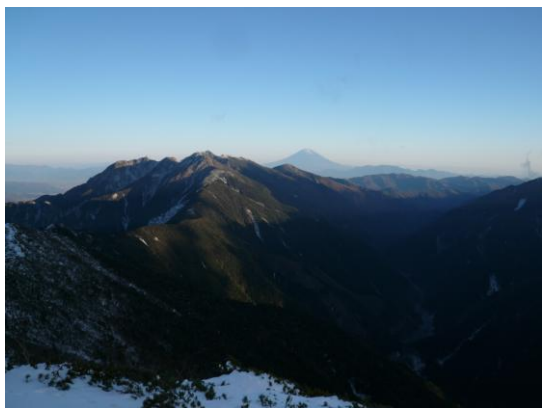
と組、すでに休んでいたが、七丈で私たちの横にテントを張っていた夫婦だった。今回は私たちと全く同じ行程のようだった。

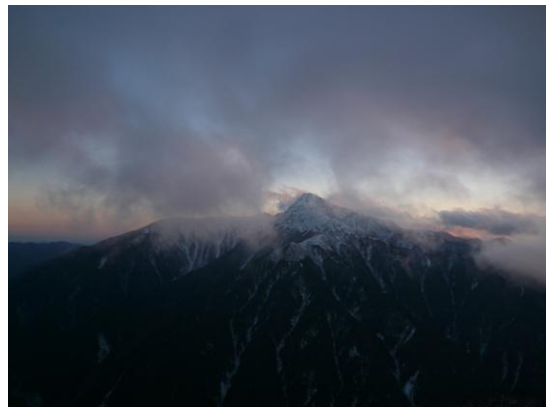
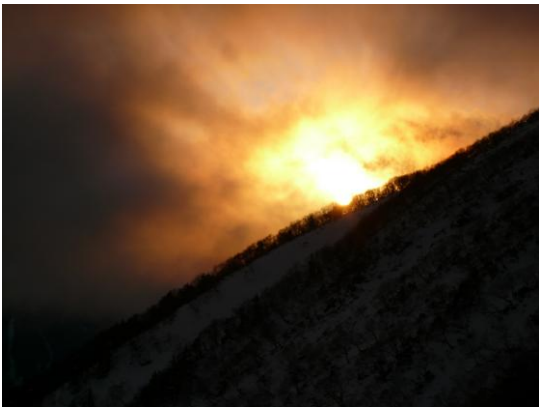
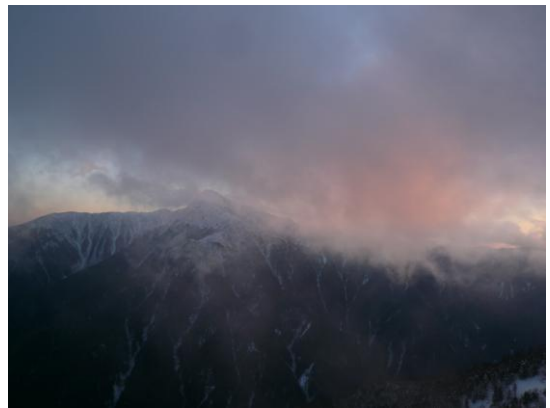
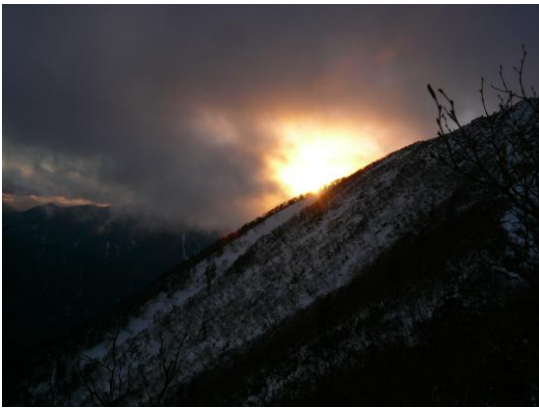
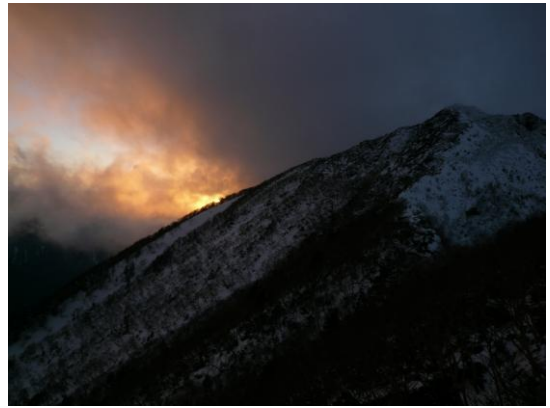
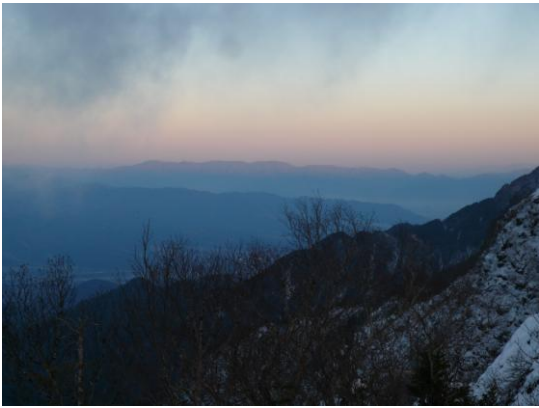
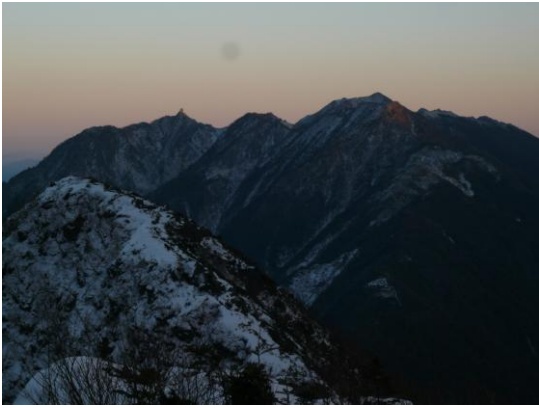
三枝にはお湯をたくさん飲ませて少し寝かせ、その間に食事を支度して、彼を起こして食べさせたら食欲があったのでほっとした。

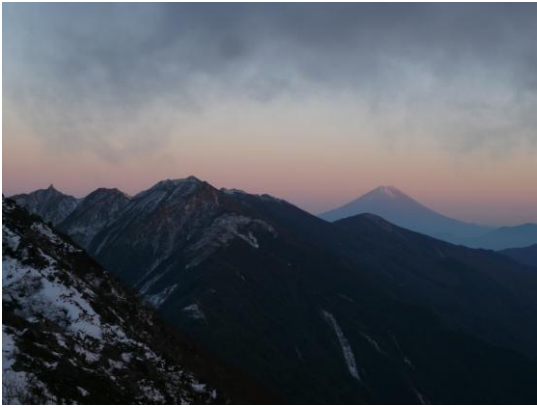
長い1日で、さすがに疲れたが、印象深い1日であった。



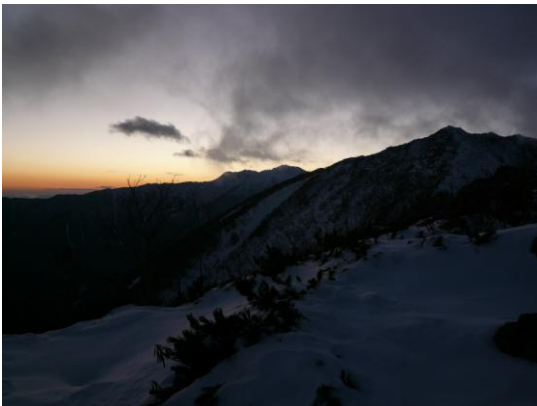
アサヨ峰から早川尾根小屋を目指す







日が沈んでしまった。この先、暗い中を2時間歩き続け、午後7時前、ようやく目的地の早川尾根小屋に着いた。長い1日だった。



雷鳥の足跡